

(Michx.) Cooperrider とする意見もあるが、多くの本では別種としているし、両者が連続することもないので、別種として扱うのが妥当だと思う。東大にあるヒメアメリカアゼナの採集地は次の様である。京都府、伏見、宇治川、観月橋、河原の湿地（山崎敬, Sept. 26, 1951, no. 5571）。京都府、伏見、向島（中井 源, Sept. 27, 1951, no. 5689）。千葉県、柏市、手賀沼畔（伊藤 至, Sept. 1, 1967）。山崎と中井の標本は日が違っているけれど、同じ日に同じ場所で採集されたものと思う。中井（現姓村田）氏の案内で観月橋の下河原に群生している本種を見付け、当時アメリカアゼナと同定したままにしていたものである。ヒメアメリカアゼナはアメリカアゼナと同じ頃に帰化しているので、もっと広がっているものと考えられる。アメリカアゼナと混同されている可能性が高い。（東京大学 理学部附属植物園）

○ヘラオモダカの新変種アズミノヘラオモダカ（角野康郎・浜島繁隆）Yasuro KADONO & Shigetaka HAMASHIMA: A new variety of *Alisma canaliculatum* found in Japan

1984年8月、長野県南安曇郡穂高町の水田で、花茎が葉より上に出ず、花が密集した花序をもつヘラオモダカを採集した。神戸と名古屋でこの植物を栽培して観察を続けたが、上記の花茎の特徴は安定していた。通常のヘラオモダカの花茎の伸び方について、自生地及び栽培下で注意深く観察をくり返し、標本にもあたってみたが、花茎は必ず葉よりも上に長く伸び、散開した大形の花序になる。ヘラオモダカの花茎の最下部の枝は3本がふつうであるが、穂高町の植物では分枝が3～5本と多い。この枝は横に広がらず斜上し、5～15 mm 伸びたところで4～8本の花柄を出す。この花柄も4～15 mm と短いため、花（果実）が密集した花序になるのである。その他の形質では全体が小形（全高 15～20 cm）であるということのほか際立った差異は認められないが、上に述べたような花茎の特徴をもつヘラオモダカは今までに知られていないので、新変種として記載することにした。和名は産地にちなみ、アズミノヘラオモダカとする。

Alisma canaliculatum A. Braun et Bouche [Ind. Sem. Hort. Berol.: 5 (1862), nomen] ex Samuelsson, Ark. Bot 24A (7): 29 (1932)

var. **azuminoense** Kadono et Hamashima, var. nov. (Fig. 1)

A typo differt scapis quam foliis brevioribus et inflorescentiis condensatis.

Hab. Nagano Pref.: in a paddy-field, Hodaka-cho, Minami-azumi-gun (Y. Kadono & S. Hamashima 841, Aug. 6, 1984: Holotype in KYO).

末筆ながら、ラテン語の記載文等でお世話になった京都大学理学部植物学教室永益英敏氏に心より御礼申し上げます。（神戸大学 教養部生物学教室・高蔵高校）

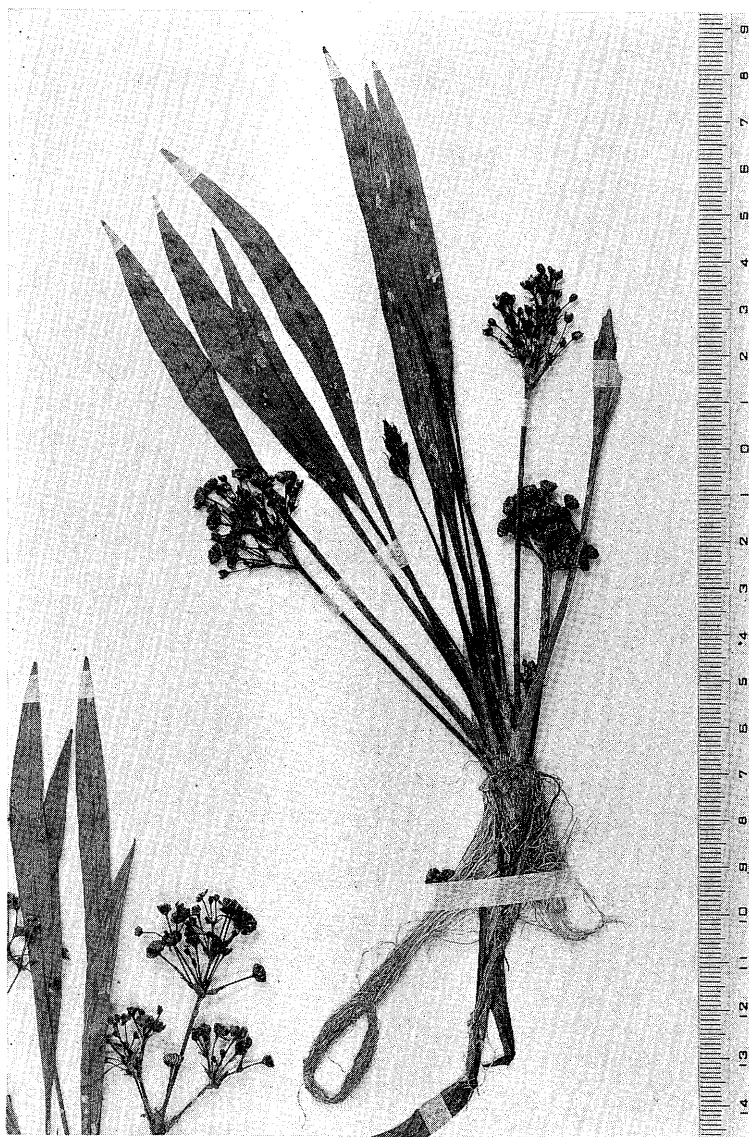


Fig. 1. *Alisma canaliculatum* A. Braun et Bouche ex Samuelsson var. *azuminoense* Kadono et Hamashima. Type.